



# 「防災テーマパーク宣言」 のまち・中土佐町 ～防災×産業×観光 のまちづくり～



高知県 中土佐町  
町長 池田 洋光

## 1 はじめに

当町は高知県中西部に位置する人口約6,600人の小さな町です。古くから第一次産業を中心とした生活を送り、特に漁業においては「土佐の一本釣り」で知られるカツオ漁が盛んに行われてきたことから、近年では「鱈乃國」と銘打ち、観光産業の育成に力を入れてきました。

しかし、2011年の東日本大震災以後、南海トラフ地震による津波浸水想定が最大で22mと発表され、まずは町の人口の8割、約5千人が居住する津波浸水想定区域住民の「命を守る」ことを最大の行政課題と捉え、震災当時2名体制であった総務課防災係を、臨時職員含め最大9名まで増員するとともに、危機管理室を発足させて防災体制の強化を図りました。

## 2 「命を守る」ための対策

一刻も早い避難困難区域の解消を目指し、自主防災組織や地権者のご協力により、震災から約6年の間に町内沿岸域に76本の津波避難道と2基の津波避難タワーを整備しました。加えて、避難所を兼ねた大型資機材倉庫や、被災時に寄せられる救援物資の集積とデリバリー機能を持たせた施設を整備するとともに、山間部には2か所のヘリポートも建設したところです。

また、明日は我が身の立場から、震災直後の被災現場にお見舞いを兼ねた調査に向き、多くの首長や関係者の皆様から体験

をもとにした貴重なご意見を頂戴しました。その結果、つながった命を守り、一刻も早い復旧を果たすためには、司令塔である役場が被災しない場所にあることが最も重要であるとの結論に至りました。そこで、津波浸水想定区域に位置していた役場庁舎、消防庁舎に加え、旗艦保育所である久礼保育所の高台移転事業に着手しました。

本事業は、住民の8割が暮らす久礼地区の中心街より200m山手寄りの国道、県道、町道が交わるタウンゲートに、災害時の避難所となる高台立地の既存小中学校と合わせ、有事の際のマンパワーと情報の集約を図るための施設を建設するもので、町の一般会計当初予算に匹敵する総工費70億円にのぼる大事業となりました。

役場など中心施設の移転には反対意見も多く困難を伴いましたが、議会や住民の皆様にも丁寧な説明会を重ねた結果、2021年1月に無事全ての移転を完了したところです。

## 3 「命をつなぐ」ための対策

新設の施設はそれぞれ非常用電源設備を有し、役場庁舎には自家給油所を整備することで、復旧期における人材や燃料確保などを総合的に行うエリアとしての環境を整えました。加えて、役場庁舎と消防庁舎が隣接することによりこれまで以上の連携体制が強化され、確実に防災対応力の底上げに繋がっています。



役場庁舎と消防庁舎



第1号津波避難タワー

また、本町では町外に勤務する若い子育て世帯が少なくなく、平日の災害発生時に子ども達の安全を確保することが大きな行政責務と考えております。

今回の保育所移転により、中学生以下のお子さまを持つ保護者の皆様からも、安心して仕事に専念できるとのお声をいただいております。

#### 4 「防災を活かす」まちづくり

令和3年2月に催行した新庁舎落成式典において、中土佐町は、防災・産業・観光が連携した取り組みを行っていく「防災テーマパーク宣言」をいたしました。これは、防災というのはヤラサレ感ではなく、日ごろの生活の中で、楽しく自然と防災に親しんでいただくことを目標とした標語です。自らの命を守る。みんなで協力して命をつなぐ。町民のみならず来町者の皆様も町の観光や産業に触れる中で、自然と防災に親しんでいただきたいと考えております。

例えば、2017年に完成した「道の駅なかとさ」は、既設の避難道を高台に位置する湯宿「黒潮本陣」と連結することで地域に不案内な観光客にもスムーズな避難誘導を

可能としています。また、一般的には閉鎖されている津波避難タワーも、当町では常時開放を原則とし、日ごろのウォーキングコースとして、また太平洋を望む展望デッキとして、町民はもとより多くの来町者にも好評をいただいております。

#### 5 終わりに

コロナ禍にあっても、防災視察や地域の防災学習の要望は多くあり、いつ訪れるとも知れない災害に対する住民の意識は、非常に高いレベルで維持できていると感じています。これもまた、庁舎移転を含めた施設整備の効果ではないかと考えます。

東日本大震災以降、海と言えば津波の脅威を連想されがちではありますが、その一方で、大きな恵みもまた私たちにもたらしてくれています。それは食であり、景観であり、文化や歴史であり、皆様には是非とも「安全・安心な町」中土佐町で、それらの恵みに触れる有意義で大切な時間を過ごしていただきたいと願っております。

「防災テーマパーク・中土佐町」は、皆様のお越しを心よりお待ちしております。